馬の学校通信 2012. 12 vol.48

発行　馬の学校

事務局　〒468-0007　名古屋市天白区植田本町 3-1105-302　TEL/FAX：052-805-2920

E-mail：mine@horseschool.org　　ホームページ：http://www.horseschool.org

馬の学校 facebook ページ始めました

今までは個人でも facebook を利用していませんでしたが、思い立って馬の学校の facebook ページを始めました。「馬の学校」で検索してください。（ちなみに個人のページは「峯崎友香理」で登録しています）まだ使い方がよくわかっておらず、中身もこれから充実させるところなのですが、「いいね！」やコメントをいただけると嬉しいです。今後の活動の充実につなげていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

ホースキッズファームかすたねっと

以前、馬の学校を手伝ってくれていたり、「わらしべ乗馬センター」でのプログラムでお世話になっていた菅さんが、仲間と共に作った牧場をご紹介します。

「この夏にオープンしたばかりの ホースキッズファーム かすたねっと は大阪 枚方市の山中にある小さな牧場です。ここにはシェットランドポニーの女の子 プリンセスモモ と ポニーの男の子 どんぐり君 が住んでいます。 平日は フリースクールとなっていて、学校が苦手な子ども達が馬の世話や畑の作業をしながら過ごしています。 週末は馬のトレーナー、作業療法士、理学療法士がチームとなり、障がいのある子ども達を対象に治療的にホースセラピーを行っています。どちらも 会員制キッズ倶楽部かすたねっとに 入会すれば利用できます。」

ＨＰ（http://www.castanetclub.com）もぜひご覧下さい・

馬が教えてくれること③

～馬を信じること～

ウマキャンプでは、第１回目の乗馬は「裸馬体験」となっています。通常の鞍はつけずに、取っ手だけがついた“軽乗鞍”をつけて、馬の背中に直接乗るため、馬のあたたかさや大きさが直に伝わってきます。日本ではあまり見かけないかもしれませんが、ドイツでは子どもたちが馬に慣れ親しむ方法としてとてもポピュラーなものです。

初めて裸馬に乗る子どもたちはちょっぴり緊張気味。他の子どもたちに手伝ってもらって馬の背にまたがると、そのあたたかさや柔らかさに驚きます。合図を出し、ゆっくりと１～２週歩いていくうちに、自然と身体が馬の揺れになじんできます。少し慣れると、馬の首筋をなでたり、手を放してみたり、馬のお尻に触ってみたり・・・。

何回か経験している子どもたちは、歩いている馬の上で後ろ向きになったり、ひざ立ちをしたり、背中に立ったりもします。このようなことができるためには、何よりも乗っている馬を信じ、自分の身を任せることが必要です。“この馬が急に走り出したら･･･”などと思っていたら、新しいことに挑戦できません。この裸馬で活躍してくれる馬は、かつてはシーザーという２人でも乗れる大きな馬、今はミルキーです。２頭とも広い安定した背中と大きなお尻を持ち、子どもたちがその背中でいろいろなことに挑戦するのをじっと待ち、気遣いながら歩いてくれる、スーパー馬です。子どもたちは急かされることなく自分のペースで、少しずつ挑戦する中で、“シーザーだったら、これもできるかも！”“ミルキーでこんなことをやってみたい！“と思えるようになっていくのでしょう。

２人で乗ると楽しい！

新しい技に挑戦中

馬の品種④　クォーターホース

クォーターホースは、正式にはアメリカン・クォーターホースと呼ばれ、アメリカ原産の品種です。西部劇でカウボーイが乗っていたり、ウエスタン競技でよく見かけることができます。体高は１５０㎝程度、筋肉質でがっしりとした体型をしています。名前の由来は、クォーターマイルレース（1/4マイル競争、約 400 メートル）と言われており、短距離の瞬発力に優れ、急発進や急停止も得意です。小須田牧場にいたクォーターホースのアルムは乗り心地もよく、とても従順で、初心者や子どもたちのフリー騎乗に最適でした。

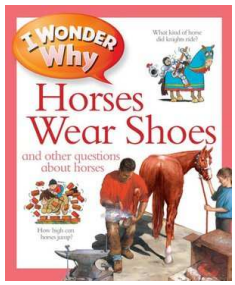
おすすめの本

『ほーら、大きくなったでしょ（１１）こうま』

ｺﾞｰﾄﾞﾝ･ｸﾚｲﾄﾝ 写真　ﾒｱﾘｰ･ﾘﾝｸ 文　山口文生訳　　評論社

いろいろな動物が生まれてから一人前になるまで紹介した写真絵本の馬バージョンです。生まれたての、足がよろよろしている状態から、ミルクを飲む様子、そして草やリンゴを食べたり、草原を走り回れるようになるまでの５ヶ月間を、こうま自身がわかりやすく説明してくれています。なかなか見る機会のないこうまの成長の様子がよくわかります。ちなみに馬の１歳は、人間の４歳位に相当すると言われています。

馬のひみつ（２）



前号に続き、絵本の中からの紹介です。

Q：馬の種類はどのぐらいあるの？

A：馬とポニーの品種は、２００以上あります。品種ごとに、毛色や大きさなどの一定の特徴を持っていて、仔馬にもひきつがれます。

Q：一番小さな馬は？

A：世界でもっとも小さな品種は、フェラベラです。フェラベラは大人になっても、体高（地面から首の付け根までの高さ）が７５㎝しかありません。

Q：一番大きな馬は？

A：世界でもっとも大きな品種は、荷物を引く馬たちの品種です。中でもシャイヤーは体高が 170～１８０㎝あり、体重は１トンにもなります。

フェラベラ

シャイヤー

（http://www.falabellahorses.com/）　（wikipedia より）

編集後記

今年は秋の訪れが遅かったにもかかわらず、あっという間に去り、冬の寒さは厳しくなりそうです。

マタニティライフもいよいよ後半、残り少なくなってきました。おかげさまで経過は順調です。妊婦健診を受けていて感じたことなのですが、産婦人科の先生はほとんど身体（赤ちゃんがいるお腹にも！）には触れません。赤ちゃんの様子は超音波の機械を通して診ることができますし、脈拍は血圧計で測れ、客観的な数値として現れます。一方で鍼灸院では、手首で脈を取り、その強弱から体調を判断し、お腹に触れてその固さや柔らかさ、温かさや冷たさを確かめ、赤ちゃんの位置だって分かります。「手当て」という言葉があるように、医療行為の中で「触れる」ことは大切なのではないかと感じます。赤ちゃんにとっても、肌の接触を通した情緒的交流が、人に向かう愛着を育てると言われています。「触れあう」ことの意味をもう一度考えてみたいと思いました。

＊次号の通信発行は３月以降になります。どうかご了承下さい。（峯﨑　友香理）